

跳べたよ！ 常磐会短期大学附属茨木高美幼稚園（大阪府茨木市）

【5歳児】

4歳児は運動会をきっかけに、自分の短縄を持っている。しっぽ取りゲームや縄取り競争などのいろいろな縄遊びをして、縄に興味をもったりいろいろな扱い方を楽しんだりする。縄を回す感覚や手と足の協応性など子どもなりに“できるようになっていくこと”を感じ、次第に意欲が高まっていく姿が見られる。

【事例】「先生、見てて。跳べたよ！」（4～6月）

- ◆縄跳びを手にすると、前回し跳びにチャレンジする子どもが多い。
しかし、なかなか手・足のタイミングが合わず思うように跳べない子どもがいる。



・縄が飛ぶ前にたるんでしまって跳べない
・縄を跳び越すタイミングが分からず、ひっかかってしまう
・連続して跳ぶことができない
↓
「何で、ひっかかってしまうんやろ？」
「縄が、クニャってなってしまうねん」

<保育者の思い>
タイミングをつかむには…
縄をたるませないで回すことができるようになるには…
どうしたらいいかな

- ◆体の横で縄を回し、回しながらジャンプする。

・腕（手）を大きく回したらいいんとちゃう？
・縄が前にきた時に跳んだらいいんとちゃう？
・高くジャンプしたらいいんとちゃう？

<保育者の思い>
気付いたことを意識している。
少しずつタイミングが分かってきたみたい

- ◆前回し跳びに挑戦する。
ひかっかっても、繰り返し挑戦する。

～何回も挑戦し、初めて前回し跳びができたA児～
A 児：「先生、見ててや、跳べたで」（得意そうに前回し跳びを見せる）
保育者：「すごいやん、3回も跳べたね」
A 児：「こうやってな、手を大きく回すねん。ほんで、前にきたら跳ぶねん」



- ◆「連続で何回跳べるか」跳びながら数えたり、後ろ回し跳び、駆け足跳びなど「いろいろな跳び方」に挑戦したりする。挑戦しながら縄跳びを楽しんでいる。

- ◆長縄跳びでは、くぐり抜けのタイミングを友達同士で声をかけ合いながら楽しんでいる。

《考察》

- ・ 前回し跳びをしたいという思いを受け止めると共に、子どもの姿から経験の積み重ねの段階を追って繰り返し取り組めるように助言したり、子どもなりに感じたことや気付いたことを言って伝わるようにしたりした。そうした環境で縄跳びができたことで、「前回し跳びができないからやめた」とならず、跳ぶタイミングを体で感じて実践していく、意欲的な姿になった。
- ・ できたという自信から、次への活動意欲へとつながった。

みどころ
この事例は、どこの園でも見られるような縄跳び遊びです。毎年のように繰り返されていることやよく見受けられる場面でも、こうして保育者の記憶に残ったことを記録にし、保育者の思いやその前後の子どもの言葉や動きを分析・考察することで、子どもたちの変容・成長が見えてきます。跳べるようになるために子どもたちが感じたり気付いたりしていることから、また、その内容（質）が向上していることから、「科学する心」の育ちを捉えることができます。